



がんセンター



精神医療センター



循環器呼吸器病センター



こども医療センター



Kanagawa Prefectural Government

第2回 県立病院機能の あり方検討会

足柄上病院



令和7年8月
健康医療局保健医療部
県立病院課

本日の流れ

- 1 第1回振り返りと本日の議論
- 2 循環器呼吸器病センターの概要
- 3 循環器呼吸器病センターの現状
- 4 お諮りしたいこと

1 第1回振り返りと本日の議論

1 第1回の振り返り①_県立病院の役割

<県立病院の役割とは>

第四期中期目標

■これまでの役割

こども医療センター
精神医療センター
がんセンター
循環器呼吸器病センター

高度・専門医療を取り扱う県内の拠点病院として
地域の医療機関では対応が困難な患者への医療を提供

足柄上病院

県西地域の中核的な総合病院として
地域の二一ズを踏まえた総合診療などの医療を提供

■これからの役割

県内の医療機関のフロントランナーとしての役割も果たす必要

社会状況の変化に対応し、引き続き県立病院としての役割を担うとともに、
医療DXを推進し、病院間の連携による広域医療提供や大規模災害・感染症パンデミック等
におけるフラッグシップ機能などを担う

1 第1回の振り返り①_県立病院の役割

<参考>

「地方独立行政法人神奈川県立病院機構定款」より

(目的)

第1条 この地方独立行政法人は、神奈川県における保健医療施策として求められる高度・専門医療等の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与することを目的とする。

「第8次神奈川県保健医療計画（令和6年度～令和11年度）」より

第3節 公的病院等の役割

1 現状・課題

(2) 県立病院

- 県立病院は、それぞれの病院の特性に応じて ①高度・専門医療の提供、研究開発、②広域的な対応が必要な救急医療、災害時医療、感染症医療、③地域の特殊性などから地域だけでは実施が困難な医療、④医師・看護師等医療従事者の人材育成などの基本的な役割・機能を担っています。
- その上で、地域包括ケアシステムの構築や地域医療構想を踏まえた対応などの医療を取り巻く状況に機敏に対応することが求められています。
- 地域の限られた資源を有効に活用し、効率的で質の高い医療提供体制を構築するためにも、それらを支える人材の確保・養成を図っていく必要があります。

1 第1回の振り返り①_県立病院の役割

参考 各病院の配置



1 第1回の振り返り②_検討を進める上での視点について

①

各病院の担うべき役割と機能

→ 「政策医療」の担い手としての現在の役割や機能は適切か

②

県立5病院間の役割分担と連携

→ 県立病院がどのように役割を分担し、連携していくか

③

地域の医療機関との役割分担と連携

→ 地域とどのように役割を分担し、連携していくか

④

県内のフロントランナーとしての役割

→ 県立病院にどのような取組が求められるか

1 第1回の振り返り②_検討を進める上での視点について

○各病院の担うべき機能や役割分担についての主な意見

- ・ 県立病院の経営を黒字にするだけでなく、地域との役割分担をきちんと整理する必要がある。
- ・ 4つの専門病院と地域の総合病院である足柄上病院のあり方は、別の視点で考えた方が良い。

○必要なデータについての主な意見

- ・ 各病院と周囲の病院の連携の取り方やその内容
- ・ 医師と看護師の雇用状況
- ・ 複合的な疾患の患者についての対応状況
- ・ 紹介されてから初診までの時間、入院までの待機期間
- ・ 専門病院について、大学病院も含め他の医療機関との機能の違い

1 第1回の振り返り③_本日の議論

	内容	日程
第1回	県立病院の現状と課題、検討を進める上での視点	終了 令和7年6月30日
第2回	県立5病院の機能及び機能に応じた体制 ① (循環器呼吸器病センター)	令和7年8月1日
第3回	県立5病院の機能及び機能に応じた体制 ② (こども医療センター、精神医療センター、がんセンター)	令和7年9月1日
第4回	県立5病院の機能及び機能に応じた体制 ③ (足柄上病院)	令和7年10月20日
第5回	全体の最適化と連携 (適正な機能や体制の実現に向けた病院経営) ①	令和7年11月21日
第6回	全体の最適化と連携 (適正な機能や体制の実現に向けた病院経営) ②	令和8年1月
第7回	検討会報告書まとめ	令和8年3月

2 循環器呼吸器病センターの概要

2 循環器呼吸器病センターの概要

(1) 沿革

県立循環器呼吸器病センターは、昭和29年度に306床の結核専門病院「長浜療養所」として診療を開始した。

その後、時代の経過とともに、結核患者は減少する一方、非結核性の呼吸疾患のニーズが高まったため、名称を「県立長浜病院」に変更するとともに、結核病棟の一部を一般病棟に変更するなどを行い、昭和50年代は、呼吸器の専門病院として内科的診療を行った。

その後、昭和50年代後半から60年代前半にかけて、循環器機能や手術を行う体制を整備し、名称も「県立循環器呼吸器病センター」に変更し、循環器及び呼吸器の専門医療を提供する病院として現在にいたっている。

昭和27年度	県における結核対策強化のため、療養所の建設計画が策定される。
昭和29年度	本館、病院棟 6 棟及び付属建物14棟が完成し、『長浜療養所』として結核性患者の診療（内科）を開始
昭和51年度	『県立長浜病院』に改称（結核患者減少、非結核性呼吸疾患への対応）
昭和59年度	「かもめ計画」の一環として、呼吸器、循環器疾患診療の中核機関としての機能の充実を図るため、長浜病院増改築工事（第1期）着工
昭和60年度	第1期増改築工事完成、東病棟、集中治療室、手術室、検査部門、ボイラー施設等整備
昭和62年度	第2期の1増改築工事完成、外来棟、西病棟
昭和63年度	第2期の2増改築工事完成、南病棟、夜間救急外来等整備。『県立循環器呼吸器病センター』に改称
平成15年度	結核病棟新築工事完成。3西病棟、3南病棟を60床に減じて移転
平成23年度	放射線治療棟新築工事完成
平成25年度	肺がん包括診療センター、気胸センター開設
平成26年度	心房細動センター、アブレーション専門外来開設
平成27年度	臨床研究所開設、「糖尿病内分泌内科」新設、間質性肺炎センター設置
平成29年度	救急病院指定
令和2年度	県の新型コロナウイルス感染症「重点医療機関」に指定

2 循環器呼吸器病センターの概要

(2) 主な機能等

【第四期中期目標・中期計画（抜粋）】

中期目標	3 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 (4) 各病院の主な機能と今後の方向性 オ 循環器呼吸器病センター 循環器・呼吸器病の専門病院として、高度・専門医療及び救急医療を提供すること。 結核指定医療機関として、結核医療を提供すること。 併存疾患等のある患者に対応できる体制の充実を図ること。
中期計画	第2 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 4 各病院の主な機能と今後の取組 (5) 循環器呼吸器病センター 循環器及び呼吸器領域の専門病院としての役割を果たすため、次の取組を行う。 ア 循環器における主な機能 急性期医療、救急医療を中心に、併存疾患への対応等総合的な医療の提供 心臓病の急性期治療、超高齢化社会で急増する心不全への対応、アブレーション等の治療、未病の改善、QOL 向上等 イ 呼吸器における主な機能 新規の検査及び治療の積極的な導入 肺がんの低侵襲手術や高精度な放射線治療 間質性肺炎等呼吸器分野の難病患者に対する多職種によるチーム医療 多剤耐性結核対策を含めた総合的な結核医療 ウ 地域連携の取組 中長期を見据えた循環器呼吸器病センターのあり方等の検討

2 循環器呼吸器病センターの概要

(3) 病院の概要

開設年月日	昭和29年10月27日
所在地	〒236-0051 横浜市金沢区富岡東6丁目16番1号 (電車)京浜急行線「能見台駅」下車 徒歩5分(送迎バスあり) (車)横浜横須賀道路「堀口能見台インター」若しくは首都高速湾岸線「幸浦インター」から約5分
診療科目	呼吸器内科、循環器内科、糖尿病・内分泌内科、呼吸器外科、心臓血管外科、放射線科、麻酔科、病理診断科、皮膚科※、眼科※、耳鼻咽喉科※、歯科※ (※対象は入院患者)
許可病床数	一般病床179床(ICU6床含む)、結核病床60床、計239床
主な施設	有料個室25室、手術室4室、外来診察室19室、外来化学療法6床、アンギオ室(血管造影室)2室、全身用X線320列診断装置1台、高精細CT撮影装置1台、1.5テスラMRI装置1台、血管造影装置2台、内視鏡室1室、高精度リニアック装置1台、心臓超音波装置3台(うち経食道心エコー検査が可能なもの2台)
看護体制	急性期一般入院料1、結核病棟 10対1入院基本料、特定集中治療室管理料5
その他	地域医療支援病院、臨床研修病院指定(協力型)、第二種感染症指定医療機関(結核病床)、公害医療機関、難病医療費助成指定医療機関、戦傷病者特別援護法指定医療機関、労災保険指定医療機関、原子爆弾被爆者一般疾病医療機関、指定自立支援医療機関(更生医療・育成医療)、DPC対象病院、救急告示認定医療機関、県災害協力病院、横浜市金沢区災害時救急病院、指定小児慢性特定疾病医療機関、医療扶助担当機関、看護師等養成実習受託

2 循環器呼吸器病センターの概要

(参考) 病院全景写真

病院全景(2015年2月)



Kanagawa Prefectural Government

2 循環器呼吸器病センターの概要

(4)－1 配置図

- ・ほとんどの建物が築30年以上経過
- ・最も古い管理棟は築70年以上経過し、老朽化が進んでいる



2 循環器呼吸器病センターの概要

(4)－2 施設の概要

名称	管理棟	中央棟			結核病棟	第一検査 診療棟	第二検査 診療棟	放射線 治療棟
		東棟	西棟	南棟				
建設年	昭和29年度	昭和60年度	昭和62年度	昭和63年度	平成15年度	昭和62年度	平成7年度	平成23年度
面積	3階建 1,603.11㎡	3階建 4,258.33㎡	3階建 2,574.37㎡	3階建 2,148.24㎡	1階建 1,178.42㎡	1階建 2,432.16㎡	3階建 8,769.00㎡	1階建 396.34㎡
機能	事務室、 図書室、 会議室、 食堂、 更衣室等	栄養管理科、 調理室、 機械室	医事課、 待合ホール、 薬剤科	発熱外来、 防災セン ター	結核	外来、 内視鏡検査 室等	外来、 CT、 MRI等、 医局、 ME室等、 手術室、 ICU	リニアック

2 循環器呼吸器病センターの概要

(5)－1 職員数（常勤）（令和7年3月31日時点）

（単位：人）

医師	看護師	薬剤師	一般事務	管理栄養士	診療放射線技師
32	177	14	18	3	17

臨床検査技師	福祉職	理学療法士	臨床工学技士	病棟技能職
15	2	6	3	1

2 循環器呼吸器病センターの概要

(5)－2 医師数（常勤）の推移（循呼センター）

（各年度3月31日時点）

R1と比較すると循環器の医師数が減少している。

（単位：人）

診療科名	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
所長・副院長	3	3	3	2	3	3	3	3
医療局呼吸器内科	12	12	12	13	12	14	14	12
医療局呼吸器外科	3	4	4	4	5	5	5	4
医療局循環器内科	7	8	8	8	8	6	5	6
医療局心臓血管外科	3	3	3	2	2			1
医療局糖尿病・内分泌内科	2	2	2	2	2	2	2	2
医療局放射線科	4	3	3	3	2	2	1	2
医療局麻酔科	3	3	2	1		1	1	
医療局病理診断科							1	1
医療局（検査科担当）								1
合計	37	38	37	35	34	33	32	32

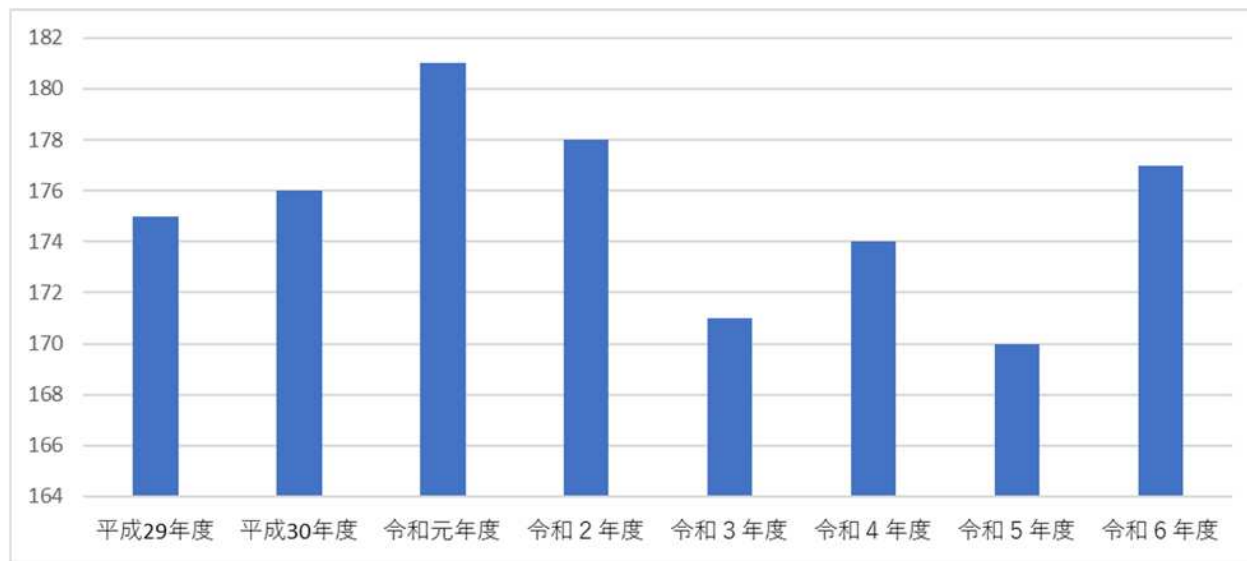
2 循環器呼吸器病センターの概要

(5)－3 看護師数（常勤）の推移（循呼センター）

R1と比べ看護師数は減少している。

（単位：人）

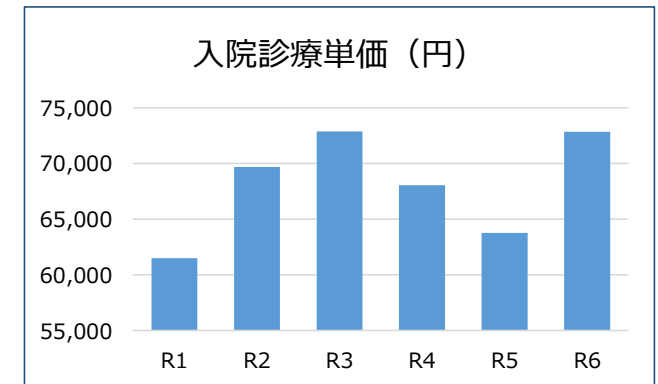
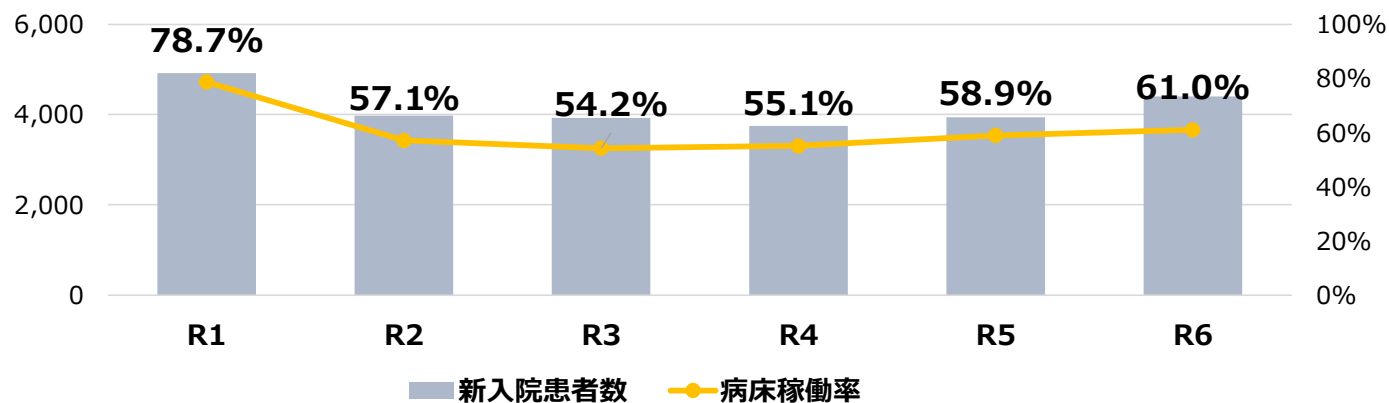
平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
175	176	181	178	171	174	170	177



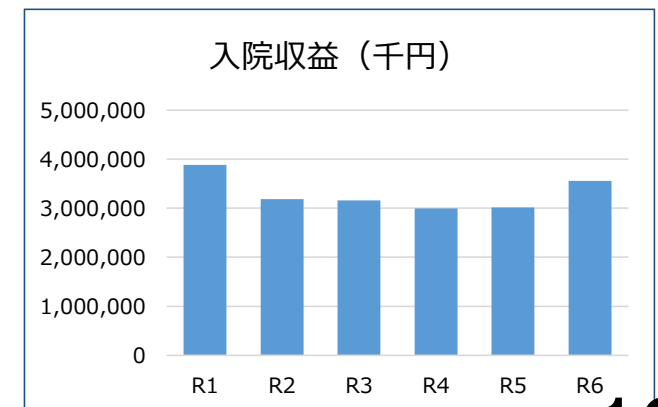
2 循環器呼吸器病センターの概要

(6)－1 入院患者数等（全体）の動向

病床稼働率はR3から回復傾向、R1(コロナ前)の水準には回復しておらず、稼働率6割という低い水準
R1と比べて入院診療単価は増加しているが、患者数が減少したため、入院収益はR1の水準まで戻していない。



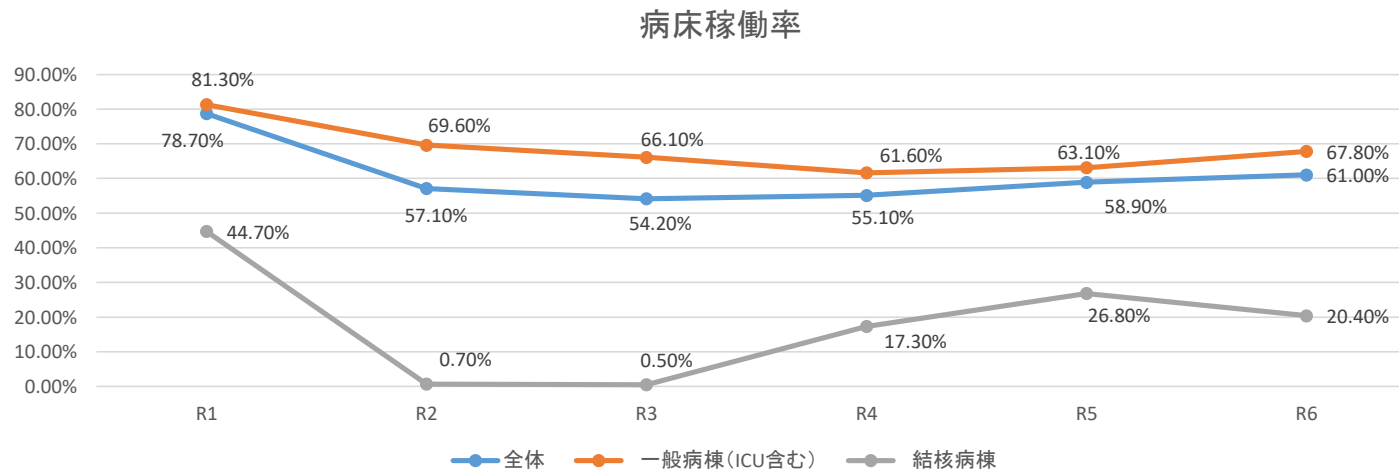
	R1	R2	R3	R4	R5	R6
新入院患者数 (人)	4,916	3,976	3,923	3,744	3,940	4,401
入院延患者数 (人)	63,110	45,666	43,296	44,025	47,206	48,761
病床稼働率	78.70%	57.10%	54.20%	55.10%	58.90%	61.00%
平均在院日数 (日)	12.8	11.5	11.0	11.8	12.0	11.1
入院診療単価 (円)	61,487	69,688	72,870	68,035	63,769	72,838
入院収益 (千円)	3,880,432	3,182,388	3,154,996	2,995,241	3,010,260	3,551,661



2 循環器呼吸器病センターの概要

(6)－2 病床稼働率（一般病棟・結核病棟別）

一般病床及び結核病棟ともにR1の水準には戻っていない。

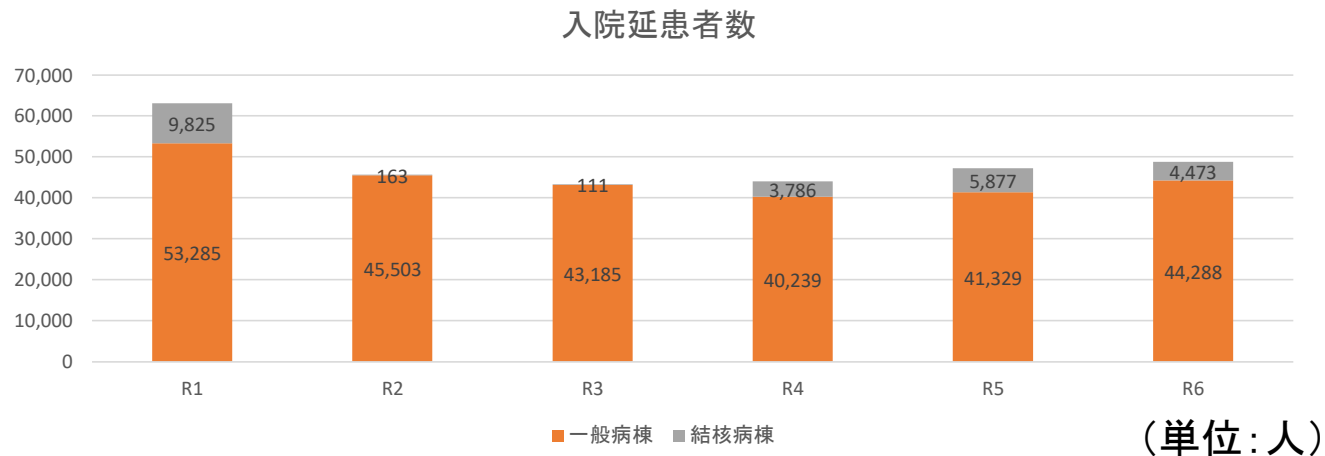


区分	稼働 病床数	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R1との差
病床稼働率 (全体)	219床	78.7%	57.1%	54.2%	55.1%	58.9%	61.0%	△17.7%
一般病棟 (ICU含む)	179床	81.3%	69.6%	66.1%	61.6%	63.1%	67.8%	△13.5%
結核病棟	60床	44.7%	0.7%	0.5%	17.3%	26.8%	20.4%	△24.3%

2 循環器呼吸器病センターの概要

(6)－3 入院延患者数（一般病棟・結核病棟別）

R1と比べて結核病棟は大幅に減少、一般病棟もR1の水準には戻せていない。

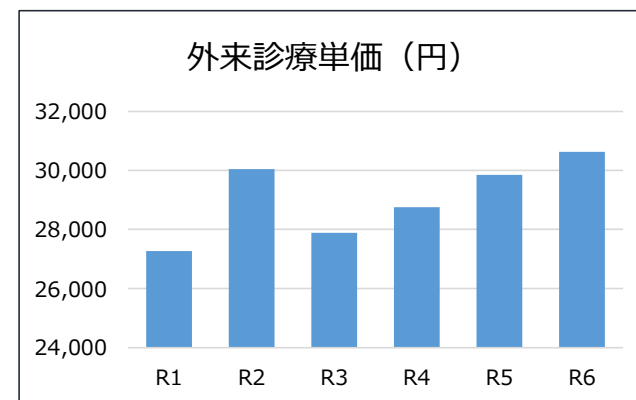
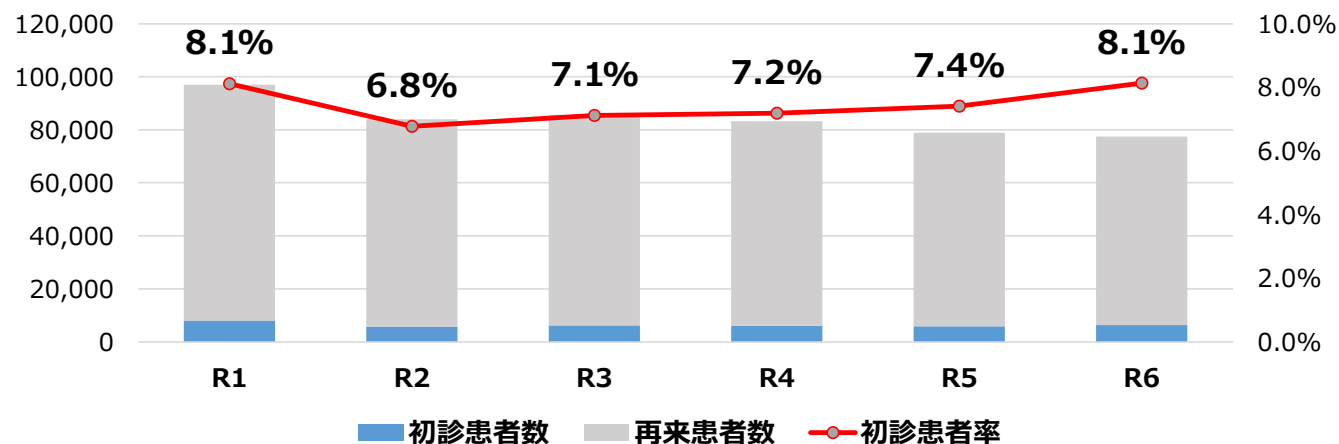


区分	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R1対比
入院延患者数 (全体)	63,110	45,666	43,296	44,025	47,206	48,761	77.3%
一般病棟	53,285	45,503	43,185	40,239	41,329	44,288	83.2%
結核病棟	9,825	163	111	3,786	5,877	4,473	45.5%

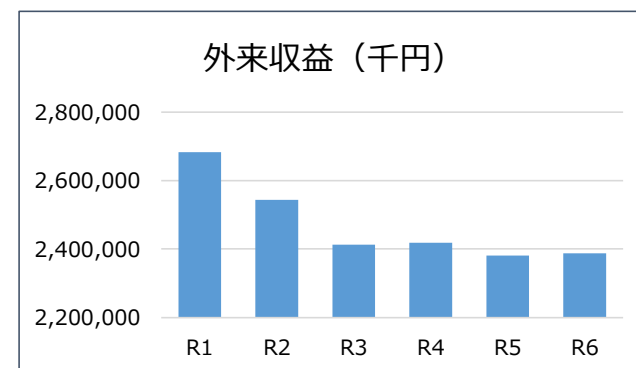
2 循環器呼吸器病センターの概要

(6)－4 外来患者数等（全体）の動向

R1と比べて初診患者数、再来患者数、外来延患者数及び外来収益いずれも減少傾向。初診患者率は上昇傾向。



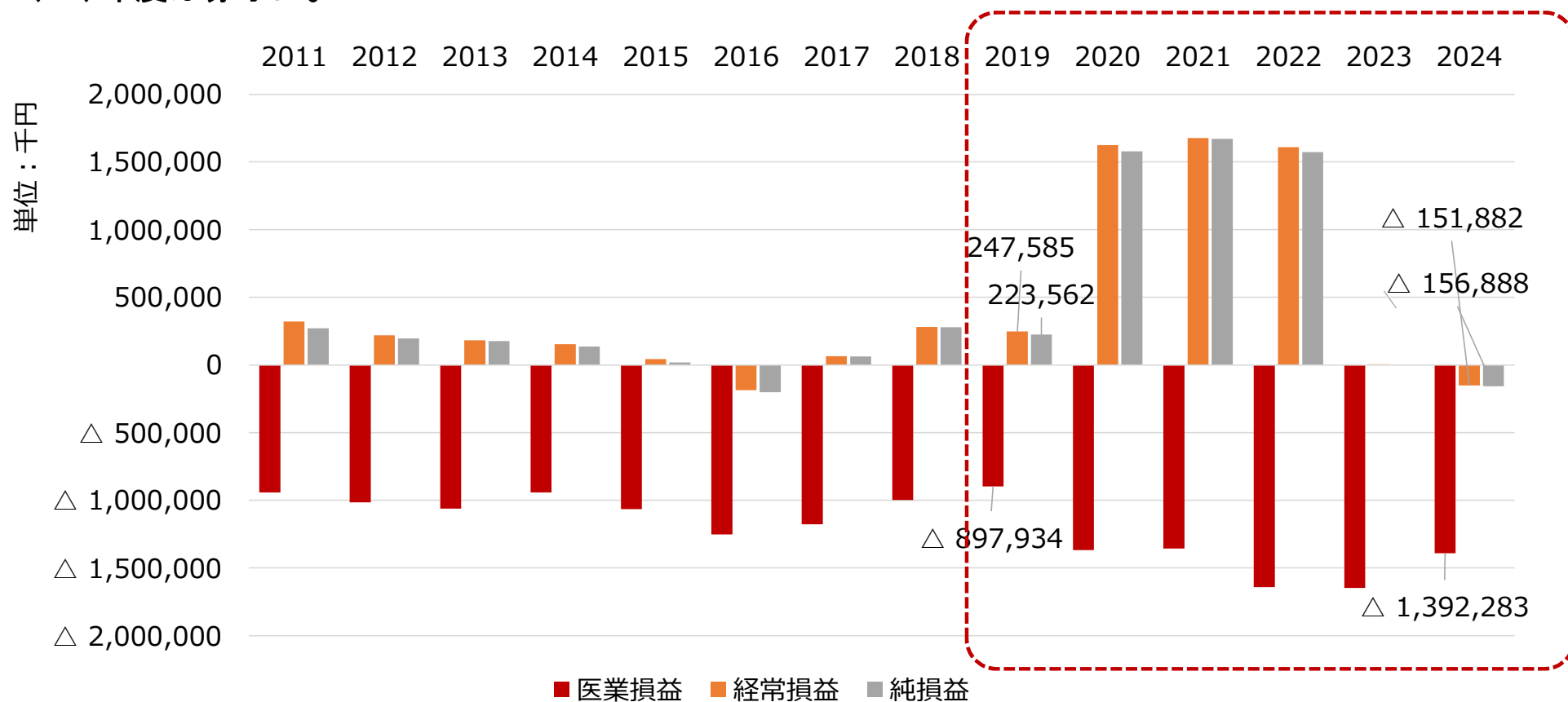
	R1	R2	R3	R4	R5	R6
初診患者数 (人)	7,967	5,731	6,151	6,036	5,899	6,333
再来患者数 (人)	88,994	78,191	79,471	77,161	73,027	71,070
外来延患者数 (人)	98,140	84,526	86,393	83,928	79,585	77,770
外来診療単価 (円)	27,270	30,047	27,890	28,752	29,847	30,624
外来収益 (千円)	2,682,561	2,543,513	2,412,966	2,418,228	2,380,588	2,387,500
初診患者率	8.1%	6.8%	7.1%	7.2%	7.4%	8.1%



2 循環器呼吸器病センターの概要

(7)－1 医業損益・経常損益・純損益の推移

2019(R1)年度まで概ね黒字を計上。2020(R2)年度から2022(R4)年度はコロナ補助金の影響で大きく黒字。2024(R6)年度は赤字に。



3 循環器呼吸器病センターの現状

3 循環器呼吸器病センターの現状

循環器呼吸器病センターの現状について、
①～④の疾患別に整理する

①	循環器関連疾患
---	---------

②	呼吸器関連疾患
---	---------

③	難治性呼吸器疾患
---	----------

④	結核
---	----

3 循環器呼吸器病センターの現状

① 循環器関連疾患

患者数等

- ◆ 対応している疾患については、他の病院と比べて特色がない。
- ◆ 近隣の医療機関と比較しても、シェアが高い疾患はない。
- ◆ 患者数は、R1年度と比べて大幅に減少している。

患者推移

- ◆ 入院患者数等（新入院患者数及び入院延患者数）は、コロナ前のR1年度に比べて減少している。
循環器内科はR6年度に増加しているが、R1年度には達していない。
- ◆ 横浜医療圏全体の入院患者数はR2年度以降増加又は横ばいの傾向だが、循環器呼吸器病センターはR1年度以降、R5年度まで減少傾向。
- ◆ 外来患者数等（初診患者数、再来患者数及び外来延患者数）は、R1年度に比べて減少している。

3 循環器呼吸器病センターの現状

① 循環器関連疾患

地域連携

- ◆ 紹介先・逆紹介先の地域について、ともに金沢区で半数程度を占め、ほか、横浜市内及び横須賀市で全体の8割程度を占める。
- ◆ 近隣の医療機関（車で30分圏内）が多い。

手術件数

- ◆ 循環器内科は、回復傾向だが、他の病院でも実施されている手術が多い。心臓血管外科はR1年度と比べて大きく減少し、件数も少ない。

心臓リハ 件数

- ◆ 実施件数はR6年度は減少したが、実施率は県内平均より高い。
- ◆ 対応できる医療機関は、循環器呼吸器病センターの周辺に複数ある。

3 循環器呼吸器病センターの現状

① 循環器関連疾患

入院収益

- ◆ 循環器内科は、R1年度と比べて患者数は減少したが、入院診療単価が増加したため、R6年度の入院収益は増加した。
- ◆ 心臓血管外科は、R1年度と比べて入院診療単価は増加したが、患者数が大きく減少したため、R6年度の入院収益は減少した。

救急医療

- ◆ 救急医療入院は減少しており、近隣の医療機関と比べて受入数が少ない。
- ◆ R5年度の救急車搬送入院患者数も142人(県内274病院中53位)で少ない。

①のポイントまとめ

- ◆ 循環器関連疾患について、高度専門病院として対応する疾患に特色はなく、手術件数も少ない。
- ◆ 患者は近隣からの割合が多いが、患者数は減少している。
- ◆ 近隣の医療機関が多く、救急医療入院も少ない。

3 循環器呼吸器病センターの現状

② 呼吸器疾患関連疾患

患者数等

- ◆ 対応する疾患については、間質性肺炎や気道出血、アスペルギルス症、抗酸菌関連疾患などの難治性呼吸器疾患の割合が多い。
- ◆ R5年度の患者数は、2,545人で、県内274病院中2位だが、割合としては3%程度である。
- ◆ 患者数は、他の病院と同様に回復基調であるものの、R1年度の患者数に達していない。

患者推移

- ◆ 入院患者数等（新入院患者数及び入院延患者数）は、R1年度と比べて減少している。
呼吸器内科の新入院患者は、R5年度より徐々に回復も、R1年度までは回復していない。
- ◆ 外来患者数等（外来患者数及び外来延患者数）は、R1年度と比べて減少している。
呼吸器外科は減少傾向で、呼吸器内科はR4年度より増加傾向も、R1年度の患者数には達していない。

3 循環器呼吸器病センターの現状

② 呼吸器疾患関連疾患

地域連携

- ◆ 紹介先・逆紹介先の地域について、ともに金沢区をはじめとする横浜市内と横須賀市が多い。県外も一定程度含まれるが、間質性肺炎の患者と考えられる。
- ◆ 件数は多くないが、近隣の医療機関（車で30分圏内）では担っていない疾患（アスペルギルス症、気道出血等）に対応している。

手術件数

- ◆ 呼吸器外科は、減少傾向。
- ◆ 呼吸器内科は、R3年度に1件まで減少するも、R4年度より増加傾向。

入院収益

- ◆ 呼吸器外科は、R1年度と比べて入院診療単価は増加したが、患者数が減少したため、R6年度の入院収益は減少した。
- ◆ 呼吸器内科は、R1年度と比べて患者数は減少したが、入院診療単価が増加したため、R6年度の入院収益は増加した。

3 循環器呼吸器病センターの現状

② 呼吸器疾患関連疾患

救急搬送

- ◆ R5年度の患者件数は、年間271件（県内274病院中40位）で、少ない。

②のポイントまとめ

- ◆ 患者数は県内で多い方だが、割合としては高くない。
- ◆ 患者について、呼吸器外科は近隣からの割合が多い。呼吸器内科の一部の疾患は、県外からの受入れも多いが、その多くは間質性肺炎と考えられる。
- ◆ 全体として患者数は、減少している。
- ◆ 近隣の医療機関は多い。

3 循環器呼吸器病センターの現状

③ 難治性呼吸器疾患

間質性
肺炎
患者数

- ◆ R5年度は、1,060人 **全国 1 位**
- ◆ 全国から患者を受け入れている。

肺がん
患者数

- ◆ R5年度は、682人 **県内 9 位**
(県立がんセンターが1,342人で、**県内2位**である。)

③のポイントまとめ

- ◆ 間質性肺炎は、患者数も多く、全国的なニーズに応えている。
- ◆ 肺がんは、県内で一定のニーズには応えているものの、近隣の県立がんセンターと重複している。

3 循環器呼吸器病センターの現状

④ 結核

- ◆ 第二種感染症指定医療機関
- ◆ 病床数 60床（神奈川県全体 4 病院で146床）

利用状況

- ◆ 全国、県内ともに、新規患者数及び罹患率は減少傾向。
- ◆ R5年度の病床利用率は、26.8%と低く、県全体の37.9%より低い。

④のポイントまとめ

- ◆ 患者数は減少傾向であり、病床利用率は低い。

4 お諮りしたいこと

1 高度専門病院としての機能

1

循環器呼吸器病センターは、高度専門病院としての機能に適合しているか

(視点)

- ・ 対応している疾患や提供している医療内容
- ・ 患者の地域性

2 県立病院として提供すべき医療

2

県立病院として引き続き担うべき医療は何か

(視点)

- ・ 他の医療機関で担うことが難しい機能
- ・ 役割を踏まえた病床規模等